

河川基金助成事業

「身近な環境への出会い」 報告書



助成番号：2023 - 7111 - 005

宮城県仙台市 学校法人ろりぽっふ学園認定こども園ろりぽっふ赤い屋根の保育園

園長 佐藤 眞弓

2023 年

様式9

[学校部門 幼稚園・保育所・認定こども園等]

[概要版報告書]

助成番号	助成事業名		施設名			
2023-7111-005	身近な環境への出会い		学校法人ろりぽっぷ学園認定こども園 ろりぽっぷ赤い屋根の保育園			
所在地	宮城県仙台市	対象河川名	七北田川			
対象園児	年長7人	活動時間	20時間			
河川教育の目標	幼児期は身近な生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な河川活動の体験を通して学ぶことを目標とする。園の周りには田んぼ、用水路が水辺への関心を持つ環境に囲まれていることから、身近な用水路を通して水辺にはどんな生き物が生息しているかを知り、探して観察したり触れたりすることで興味関心を育む。					
子どもに育成したい能力	日々過ごしている園庭の草むらや近隣の森・用水路に生息する生き物の違いについて興味を持ち、生息する場所の違いに疑問をもったり考えたりすることで思考力の芽生えを育む。 主体的に関わる中で発見した喜びや様々な気づき等、自分の思いを言葉で伝え言語力などを培いながら幼児期に大切な基礎を育む。					
評価の観点	子どもたちは河川活動に取り組むなかで「やってみたい」という思いが「学び」に繋がっていた。活動の中でも自ら興味あるものを選択し、一人ひとりが主体的に取り組む経験を積み重ね、「したい!」「おもしろい!」「これは何だろう」などの探求心・思考力の芽生えから捉えた。					
学習活動の内容と成果						
子どもたちは身近にある資源（園周辺にある森や用水路）に興味を示し、「もう一度行ってみたい」「次は生き物を発見したい」など一人ひとりが意欲を高めながら活動に参加する姿が見られた。 【内容】 ・用水路の観察 ・用水路の生き物探し ・絶滅危惧種や外来種を知る ・用水路と川の繋がり ・川遊びの中で生き物との出会い ・飼育活動 【成果】 幼児期に必要な直接体験を通して、水辺に生息する生き物に出会い、発見した喜びを味わい、更なる河川への興味へと繋がっていった。これらすべての活動に主体的に取り組み、子どもたちが試行錯誤をしながら育まれた「 <u>幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿</u> 」であると考える。						
河川教育を通じて見られた子どもの変容	河川活動に全く興味・関心を示さない子どもの姿があった。保育教諭が参加を促すことではなく、何度も同じ場所(用水路)へ出かけ直接的・具体的な体験をする他児の姿を見せることで「やってみたい」という思いへと変容した。生き物を発見した喜びや自分で生き物を捕まえた経験は幼児の主体性（意欲的・自発的）が育つ姿である。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援の概要	職員のRAC研修、川遊びの先導					
成果発表	成果作品		発表方法			
	なし					
今後の課題・展開						
・活動場所が七北田川だけでなく園から歩いて行ける用水路も増えたため、日常の散歩中でも用水路の様子を確認したりできるようになった。子どもたちの興味関心に合わせた活動がよりしやすくなったので、年長だけではなくその下の子どもたちにも用水路にいる生き物を知らせたり、飼育活動が継続できるようにしていきたい。 ・河川活動を通して育まれた力や能力を小学校教育にも繋げていけるよう、継続した幼保小の連携が必要だと思う。 ・5歳児で学んだ河川活動を4歳児へと繋いでいくためには、どのような方法で取り組むべきかを考察したい。						

キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぽっぷ学園認定こども園 ろりぽっぷ赤い屋根の保育園

はじめに

ろりぽっぷ赤い屋根の保育園は、子どもたちが“トトロの森”と名付け毎日のように散歩をしている森があり、そのそばには七北田川と繋がっている用水路など地域の資源に恵まれた環境に位置している。

生活体験の中で自分の興味や欲求に基づいて、直接的・具体的体験を通し、子ども自身が主体的に環境に関わることを大切に捉えている。幼児教育に必要な自分から興味を持ってものや人に関わることで様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうことが出来る。まさしく『遊びこそ学び』である。

河川活動は、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を通して一人ひとりの育ちが見え、心身ともに育まれている土台となった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぽっぷ学園 認定こども園ろりぽっぷ赤い屋根の保育園 園長 佐藤 真弓



学習活動名：用水路には何かいる？(用水路)

日 付：令和5年5月20日

子どもの姿：4月当初から昨年度の経験もあり、地域の森や畑脇の用水路に親しむ子どもたちの姿が見られていた。いつものように森や用水路に出掛け、虫探しや生き物探しを行っていった所、写真のように“魚釣り”をイメージしながら木の棒を用水路に向かって垂らして遊ぶ姿があった。

子どもA「魚釣れるかな」

子どもB「何か生き物いるかな」

と思ひ思ひの言葉をつぶやきながら発見し楽しみに待つ姿が見られていた。実際には藻等しか見つからず、生き物を見つけることが出来ず、残念な様子があった。

10の姿：「健康な心と体」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命の尊重」「豊かな感性と表現」



学習活動名：用水路に入ってみよう(用水路)

日 付：令和5年6月20日

子どもの姿：用水路への興味が広がった子ども達は眺めるだけでなく、実際に用水路に入りたいという思いが募っていた。実際に入ってみたことで多くの生き物がいる事に驚き、「こっちにもいる」「これはなに」と発見を楽しむ姿があった。特にしじみやアメリカザリガニの発見では、「しじみって用水路にもいるんだ」「100個くらいあるよ」と話す姿や「なんでアメリカじゃないのにアメリカザリガニがいるんだろう」と興味や好奇心の芽生えが見られていた。

10の姿：「言葉による伝え合い」「自然との関わり、生命の尊重」



学習活動名：アメリカからやってきたの？(保育室)

日 付：令和5年6月20日

子どもの姿：園に戻ってから用水路で発見した生き物に興味を持っていた子ども達。地図でアメリカと日本の位置を確認したり、図鑑を見たりする中で

子どもA「アメリカじゃないのにどうしてアメリカザリガニがいるんだろう？」

子どもB「歩いて来たのかな？」

子どもC「飛んできたんだよ」

等と想像を膨らませ、アメリカからやってきたことについて話す姿があった。子ども達の疑問を川博士の菅原さんに聞いてみる事にした。

10の姿：「自然との関わり、生命の尊重」「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」



助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぽっぷ学園 認定こども園ろりぽっぷ赤い屋根の保育園 園長 佐藤 真弓

これがアメリカ
ザリガニと台湾
しじみだよ



学習活動名：川に学ぶ～絶滅危惧種・外来種～(保育園)

日 付：令和5年6月28日

子どもの姿：用水路で様々な生き物を発見し、感じた疑問を川博士の菅原さんを園に招き思い思いの言葉で質問したり、振り返りを行う機会を設定した。すると、“ザリガニ”も“しじみ”もアメリカや台湾といった海外から来た外来種であることを知った。同時に外来種によって日本の在来種が減少している事、外来種を一度飼育をすると最後まで責任を持って飼育しなくてはならない事も知った。用水路に絶滅危惧種、外来種といった生き物に驚き、更に生き物への興味が広がっていた。

10の姿：「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり、生命の尊重」「言葉による伝え合い」

あれ！なにか
動いてる



カニじゃない？

学習活動名：カニを発見！どこから来たの？(用水路)

日 付：令和5年6月28日

子どもの姿：用水路にも絶滅危惧種や外来種がいるという学びから興味が更に深まる姿が見られた為、再度用水路に行く。用水路を見ていると、用水路と下に繋がるトンネルにカニがいることを発見した。

子どもC「あつ、カニがいる」

子どもD「この下の川から来たのかな？」

子どもE「この下に行ってみたいね」

子どもF「行ってみよう」と話していた。

更に河川への興味が広がった子ども達は用水路から河川活動へと心を揺さぶりながらまだ見ぬ川遊びの世界を楽しみに待っている様子だった

10の姿：「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり、生命の尊重」

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぼっふ学園 認定こども園ろりぼっふ赤い屋根の保育園 園長 佐藤 真弓



溺れたらこうやって
浮かぶんだね

学習活動名：川で遊ぼう PART1(七北田川)

日 付：令和5年7月25日

子どもの姿：川遊びをする為に必要なことを一つひとつ子ども達と確認した。

- ① 安全に参加する為にライフジャケットを着用する
- ② 川の歩き方
- ③ 転んだ時や溺れそうになった時の浮かび方

初めての川での活動では様々な子ども達の表情が見られた。冷たさに驚き、流れの速さを感じて中々動けなくなる姿や広い川に生き物がいるのではないかと探索する姿、石の大きさや流れの速さを楽しむ姿があった。

10の姿「健康な心と身体」「豊かな感性と表現」「道徳性・規範意識の芽生え」

学習活動名：川で遊ぼう PART2(七北田川)

日 付：令和5年8月2日

子どもの姿：カニやザリガニなどの生き物探しを身体いっぱいにしむ姿があった。2回目の活動では前回で不安や恐怖心を持っていた子どもたちも、スムーズに入水することが出来ていた。出来たという成功体験を通して、自信へと繋がっていた。また、”たくさんの生き物を見つけない”という子ども達の目標があり、取り組んでいた。大きな石の下に隠れているという生き物の特性を教えてもらった子ども達は、その大きな石の周りを友だちと協力しすき間なく網を並べ、生き物を捕まえようとする姿が見られた。この体験は、自分一人で捕まえることの喜びではなく仲間と一緒に声をかけ合いながら協力していく必要性を学ぶものとなった。ウナギやモクズガニを発見し、初めて見る生き物に驚きと喜びの声が上がった。”触ってみたい”と生き物の触り方を教えてもらいながら、

子どもA「ぬるぬるするんだね」

子どもB「逃げちゃう」

と感じた事を伝え合っていた。モクズガニの発見では前回のアメリカザリガニで学んだことをもとに、

子どもC「逃がした方がいいよね」

子どもD「育てたい」

という思いの中葛藤し、話し合い「死ぬまで育てよう」と責任を持ち飼育しようとする姿があった。

10の姿「協同性」「自立心」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命の尊重」「豊かな感性と表現」



うなぎ発見

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぽっぷ学園 認定こども園ろりぽっぷ赤い屋根の保育園 園長 佐藤 真弓



学習活動名： カニの命を守る

日 付： 令和5年8月7日

子どもの姿：飼育することを心に決めた”モクズガニ”。用水路からカニの隠れ家となるよう石を運んだり、「3 回寝たら(3 日間隔)でご飯をあげる」とエサをあげるタイミングなどを話し合い責任を持ち飼育していく姿があった。子ども達は自分にも大切な名前をつけてもらっているからカニにも名前を付けて育ててあげたいという話になった。大きなカニには”いっしー”小さなカニには”チョコちゃん”と名前を付け、愛着を持ち呼びかける姿があった。また、年下の子通し、生き物への高い興味関心が見られていた。

10 の姿「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「自然との関わり・生命の尊重」「言葉による伝え合い」

学習活動名： 大変だ、カニの足が取れちゃった！（園/用水路）

日 付： 令和6年2月27日

子どもの姿：大切にモクズガニの飼育を行っていた子ども達。ある日カニの足が取れていたことに気づき「大変だ！足が取れた」「病院に連れて行ったほうがいい」と大慌てだった。川博士に電話をしようと、相談すると「また生えてくるから大丈夫だよ」と教えてもらい、安心した表情となった。「まだ生えてこないね」と心配する姿があった為、講師と一緒にカニの生態について勉強出来る機会を設けていった。すると「石が足りず隠れる場所が無いからストレスで足が取れてしまったかもしれない」と教えてもらった。早速、石を集める等、生き物を思い行動していた。来月3月には自分たちが小学校へ入学してしまい、カニの飼育が出来なくなることを不安に思った子どもたちは次の年長も飼育しやすいようにと模造紙にカニの生態についてまとめておく姿があり、生き物の命を繋いでいた。

10 の姿：「自然との関わり・生命の尊重」



カニが隠れる為の石を拾いに行こう

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぽっぷ学園 認定こども園ろりぽっぷ赤い屋根の保育園 園長 佐藤 真弓

こうやってベルト付けるの？



学習活動名：自分たちの思いを下学年に繋ぐ

日付：令和6年2月27日

子どもの姿：年度が変わっても継続して皮への興味・関心が続いていけるように願う保育者の思いと自分達が卒園してもカニの飼育が行えるようにと願う年長児の思いがあり、川での遊び方やカニの飼育の仕方を年長児で役割を決め、年中児に伝えていった。年上の話に耳を傾け、話を聞く姿や実際にライフジャケットを着用しってみることで川へのイメージを深めていた。「年長になったら川に行くのが楽しみなんだ」と家庭で話す姿があり、来年度自分達が川に入ることへ期待を膨らませていた。

10の姿：「豊かな感性と表現」「自立心」



子どもたち自らが川に関わり、生き物を飼育しようとする主体的な姿は、自立心を育み自分の思いや考えを話す「言葉による伝え合い」が見られた。このような子どもの姿が変化していく河川活動は、子ども達の育ちに大きな意味を持っていた。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぽっぷ学園認定こども園 ろりぽっぷ赤い屋根の保育園

まとめ

毎日のように散歩しているトトロの森や用水路へ出かけながら地域の資源を身体いっぱいを感じながら活用している子どもたち。「これなあに?」「不思議だな」と感じるありのままの子どもたちの姿を丁寧に受け止めた保育教諭の関わりが、遊びを広げ展開する活動へと繋がっていることを感じる。

けっして教師主導の活動ではなく、一人ひとりの子どもが主体となって河川活動へ取り組むことは、大切な基盤となった。一人ひとりが楽しむ川遊びの活動から始まり、友だちと一緒に魚を発見し、言葉を交わしながら協力して採取する喜びへと変化している。心を揺さぶり感じることができる“感性豊かな子ども”を育てるために、保育教諭自らも豊かな感受性を持つことが大切であると感じた。

また、子どもの気づき、好奇心を持つ姿を「心の成長」と捉え、保護者へも発信していったことで、家庭でも河川活動の話題となっていることが嬉しい。

心身の発達の基盤が形成される上で、極めて重要な時期となる乳幼児期の河川活動は大きな意味を持つ。そして、生活や遊びの様々な場面で主体的に周囲の人や物に興味を持ち、直接関わる姿は「学びの出発点」と言える。今後も継続しながら「健康な心と体」「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活の関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「量・図形・文字等への関心・感覚」「言葉による伝えあい」「豊かな感性と表現」など様々な視点から子どもの育ちを捉え、見守っていききたいと思う。

河川活動を通して育まれた力を、小学校へ就学しても発揮できるような「生きる力」を持った子どもを育ていけるよう、幼児教育を頑張りたいと強く心に捉えた。

もっと水が必要だね



川を作ろう!!

今日は、川作りがスタート!!
バケツで水を汲んで、様子を確かめ
水が流れていくと「よし!」と再び水汲
みへ。
長い川作りを楽しんでいましたよ。

見て、滝ができてるよ!



下まで流れた、よし!



ちゅうりっぷさん
も気にしています



か

このラーニングストーリーは
河川教育を厚く育つ子供
の姿を保護者へ発信した
資料です。

がりました



スイートソフトクリーム
だよ

水や石、泥に触
れ、感触を楽しむ
子どもたちの姿が
ありました。
これからもたくさん
楽しみたいと思います

2023. 4. 6
みえせんせい

川で遊ぼう

6/20さいかせんせい

川の達人菅原さんに川の入り方を

教えてもらいました!



普段何気なく
歩いていて所に
こいつにもか!!と
いう程 様々な生き物がい
いました。〇〇川の達人菅原さん
は生き物がいる場所や名前
もちゃんと教えてくれました。

天気にも恵まれ、今日は
さくら組で火田の用水路に
行き、川の達人菅原さんと
身近な用水路の生き物探しに
行ってきました!



しじみを探していた
まなとくんそらとくん



どじょうを捕まえるよう
としていたまのひちゃん
とまなこちゃん



これは何??と観察する
たしかくんかなとくん



カエルを発見して
はるひくん

家に帰ってからはさくら組さんと



写真を見ながら
いろいろな生き物がい
たこと振り返り
ました。



また、今回発見した生き物の中でアメリカザリガニがいまして。
?なんでこはアメリカじゃないのにアメリカザリガニ...?と
疑問を持ち、世界地図で調べて確認してましたよ。
6/28は菅原さんに来て頂き今回の振り返りを行います!
(座学で行います)

川で遊ぶ

先日用水路で行った川で遊ぶ、川遊び。

今回は園で川の砂利を返りを行いました。

また前回 アメリカザリガニの存在に気がついた子ども達。
どうしてアメリカザリガニなの...? その疑問に菅原さ
が答えてくれました。

食料が足りない
時代、カニを
食べるため、
ザリガニをエサ
するために
アメリカから
の船によって
連れてこられた...とのこと



また以前
見つけた
しじみ
ももがら

外国からきた
台湾しじみ



外国からきた
生き物によって
今いる生き物

が減っていること

一度飼育
すると最後

まで責任を持って飼育してほしいと
伝えました。

そしてその生き物がどこからや
ってきたのか、用水路に見に行きました。



今回の事から生き物を飼うという事には
責任がある事を知り、今飼っている
タニシのお世話が出来ていない事
も感じていました。ザリガニを飼育
したくないけれどどうしようか...と話してしまっ
た。



6/28 さいかいせい

川で遊ぼう ② 25.7.25 さいかせんせい

今日はさくら組2回目の川で遊ぼうがありました!!
 前回よりもなくて速い川。安全に遊べる
 ようにライフジャケットの着用から



やて
 みまに
 ↓



菅原さんの話に
 ↓ 真剣に耳を傾けていました!!



安全に遊ぶ、確言お話を聞いて後は
 いざいへっ! なくて早い川に驚き
 なかばらも川の気持ち良さを感じて
 いました!!

冷たい...
 気持ちいい
 (笑)



入れた、いえーい☆

川に流れる練習も
 しました!! ライフジャケットに身を
 任せ...力を抜きながら...



安全に留意しながら

川ならではの冷たさ、気持ち良さを全身で感じていました。
 次回8月1日も川で遊ぼう、生き物探しを行ってほしいと思います

川で遊ぼう③

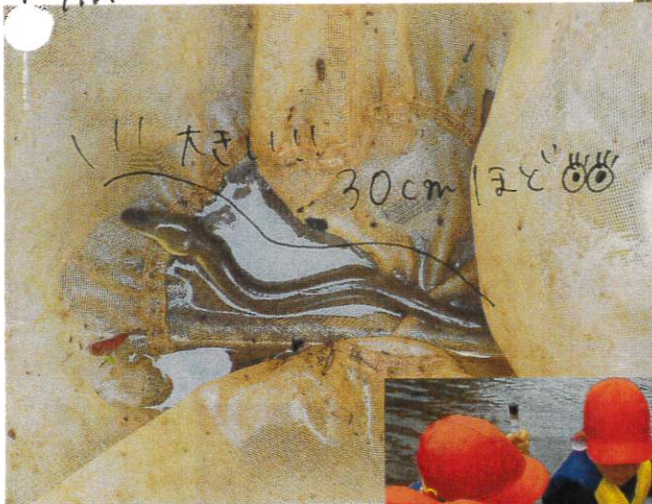
今日は川遊び3回目。
1回目は用水路、2回目は七北田川で行ってきました。

気持ちいい〜♪



今までの経験から生き物探しが上手くなってきた子ども達。
「今日は魚を捕まえるぞ〜！」と意気込んでいましたっ！
→ みんなあみでかこんで...
ワムで生き物を逃がさない

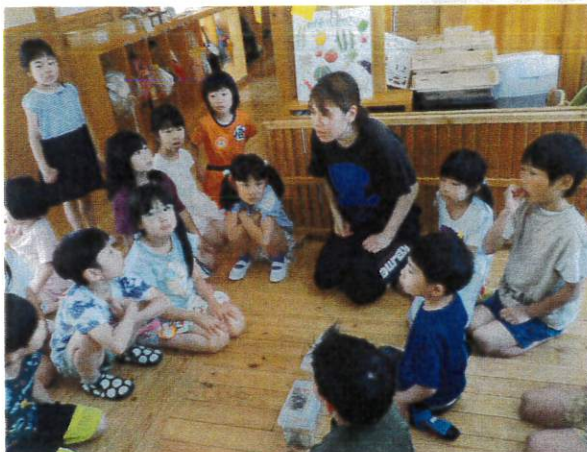
そしてなんと
天然のうなぎを捕まえた！



天然のうなぎは
川の産人の菅原さんも
珍しいよ、とのこと。



更に生き物を見つけたい、と
うなぎを見つけ、燃えていました。
→ そして次は大きなさわがしに



うなぎは鮓かき
まけかき、カニは
園で飼育することに
決めました。

南園さんでも
カニを飼育しているので、飼育のポイントを
聞いてきました。



身近な川の生き物について

学んだ子ども達、こんなにいるんですね、自然の豊かさや生き物に目を
凝らせていました。

みんなのアイドル!?

R5.8.2 さいがせんせい

カニさんいるかな!!?と

廊下へ行き何度もカニの様子を観察

していた子ども達。

みんなのアイドルのよう
でした。

また、捕まえてきたのはさくら桂
ですが、こすもす組さんもう一生懸命
カニの為に出来る事は
ないか考え行動してくれて
います!!



早く遊びに行きたい!!と
こすもす組も遊びに期待
を膨らませています♪

かたはくんはのひちゃん
たしかくんは昨日いた
うなぎを国金監で見ている
二ホーうなぎじゃない?!



「カニ、動いてないよ大丈夫かな??」

「はすかしくて隠れてるんだよ」

「お腹空いていないかな…」

「いっしー! ちょこちゃーん」など
など..

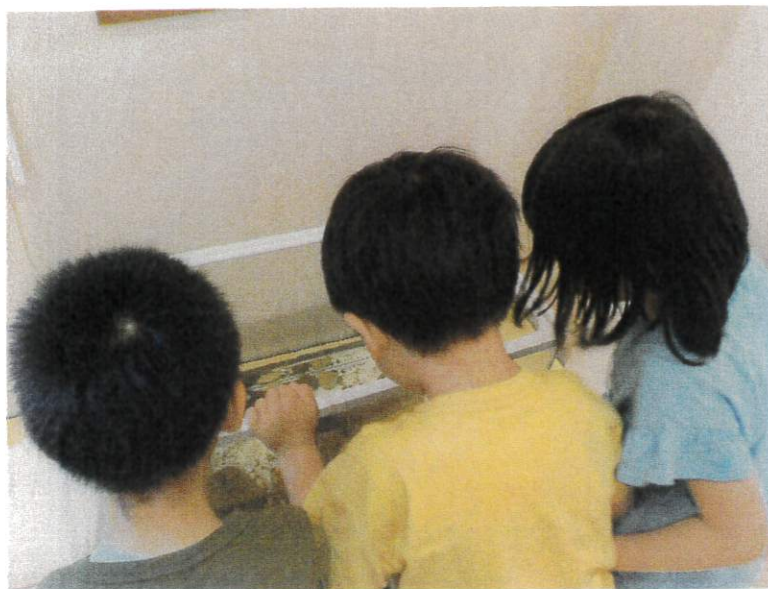
とカニの気持ちになって
観察をしています♡

生き物への温かな気持ち大切に

世話をしているといいと思います。

し…しんじやうた…!?

R5、8、7、さいかせんせい



今日はカニにごはんあげる日だよ、
3回ねたからねと話していきま

カニを観察していると

あれ!? ちよこちゃん死んじゃった
(小さなカニ)

とカニが動かずにひっくり
返っているのをはるくんが
発見しました…。

お世話していただいたのに…。

えっ…と子ども達。

しかし…よくみていると
動いているちよこちゃんの姿を
発見。

よかつたー

と安諸の声。

たよんと脱皮していた
のです



これがちよこちゃんの
皮…

興味深々

これから
いっぱい遊べるね
よかつたね♡♡



とうれしそうだったにかいぐん。

ちよこちゃんといっしょが大好きな子ども達です。

守りたい! R5.8.18 さいかせんせい

もくずかにの千コちゃん
やいしーの世話を
している子ども達。

今日は観察している中
で隣にいる魚<sup>(ネコ
テウ)</sup>
の水槽が汚れている
事に気づいた子ども達。

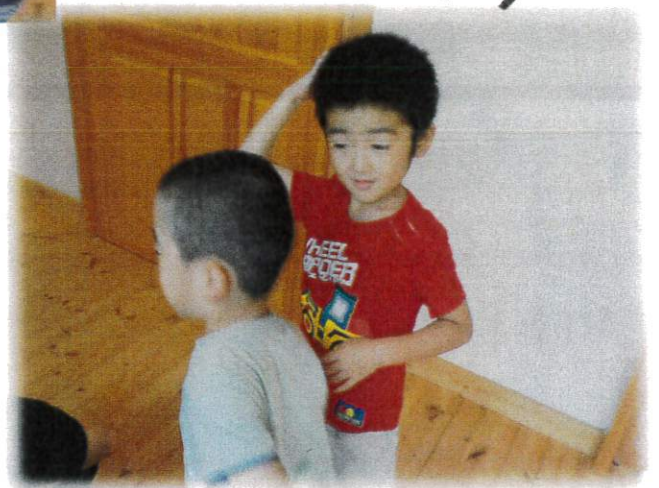


お魚が死んじゃうよ...
具合が悪くなっちゃう
とそうじをしよう!!と
話し合うことになり
ました。

真剣に行う子ども達...

愛情をもって生き物を
世話をする姿が

たくさん見られました3



はるくんはドキドキするから
見守ってるね かじいはれー!
とみんなの事を見ていて
ぐちゃぐちゃ

どうして足が取れたんだろう？

今日はさくら組、川の達人菅原さんを呼んで
カニの勉強会！

先日さくら組で食育しているかにの
足が一本取れてしまったという事があ
りました。足はまたはえてくるから
大丈夫だよと菅原さんに電話で教
えて頂いたものの心配な様子。そこで
かにの生態についてもう一度教えてもらい
ました！



菅原さんいわく大ききカニ(いしー)は
石の下に隠れていないからストレスがたま
足が取れたのでは...? という事。

おおきい



よいし...石運び

冷たい～！
とさけび
ながら石
を洗いませ

捨てた石
ごうちを作る...



そこで用水路まで行き
大きき石を探しに行きました。

他のワラスの子にも石は隠れる為
にある事、ドンドン角虫わると
ストレスになる事を伝えました。



責任を持って世話をしてくれている
さくら組さん！

色々な道に行ってみたよ



今日は、園 周辺にお散歩に行きました。「こっち行ったことない〜」「ここ通れるかな?」「行き止まりじゃない?」とわくわくしている子どもたちでした(๑)
毎日通っている保育園周辺にも、まだ知らなかった道があったんだね!と新発見でした(๑)

後半は、畑 周辺で自由にあそびました♡
「用水路に何かいるかな」「魚釣れるかも!」と

釣りをして、オオイトナギ
を摘んだり... それぞれ
楽しんでいました(๑)



あ! あそこにはイトナギが!
助けてあげよう!!
V



このふくふく
飛ばないね...

斜面を上手に
降りて、釣りをする
子どもたち
ブラウスカが
すごいです(๑)



けんたがフック
したの
飛ぶドモ!!



これからさらに暖かくなり、子どもたちの大好きな
虫や花がたくさん出てきますね(๑)
たくさん自然に触れ、季節の移ろいを楽しめたらいいと思います(๑)

2024. 2. 19 (月)

こすもす組に伝える ～川の振り返り②～

さくら組さんの川の振り返りで、ライフジャケットの着用のしかた、川に入る時に気をつけることなどをこすもす組に伝えました。

ライフジャケットの着用のしかたを振り返ったり、川の歩き方、川にはどんな危険があるのかを菅原さんと確認しました。

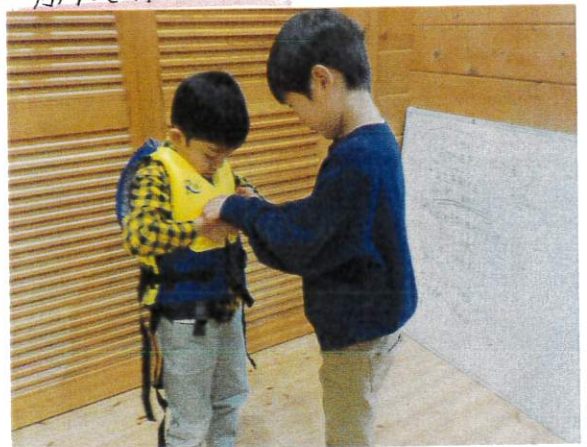
最初は、さくら組さんと菅原さんでどんな風に伝えるか話し合いました。



こすもす組さんの前でライフジャケットを着てみます。こすもす組さんも真剣に見ていましたよ。



こすもす組さんもライフジャケットを一人ひとり着用する体験をしました。さくら組さんが寄り添ってくれて、丁寧に着用のしかたを教えてくださいました。



そもとめらん
だよ



川に浮く練習もしてみました!!



自分たちが体験したことを後輩に伝えていける姿がとても頼もしく見えました。

こすもす組の子どもたちには、川の活動に期待が持てるようにしていきたいと思います。

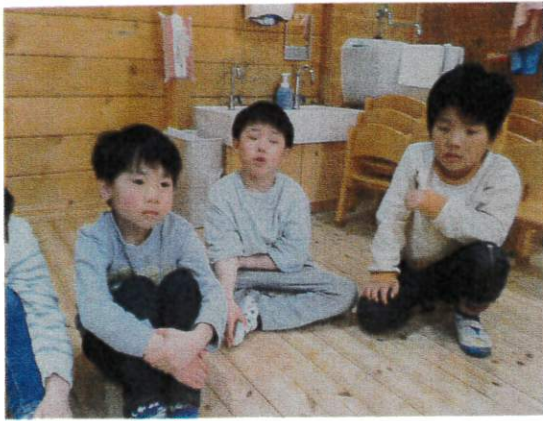
2024. 2. 27 みえせんせい

二すもす組さん、よろしくね!

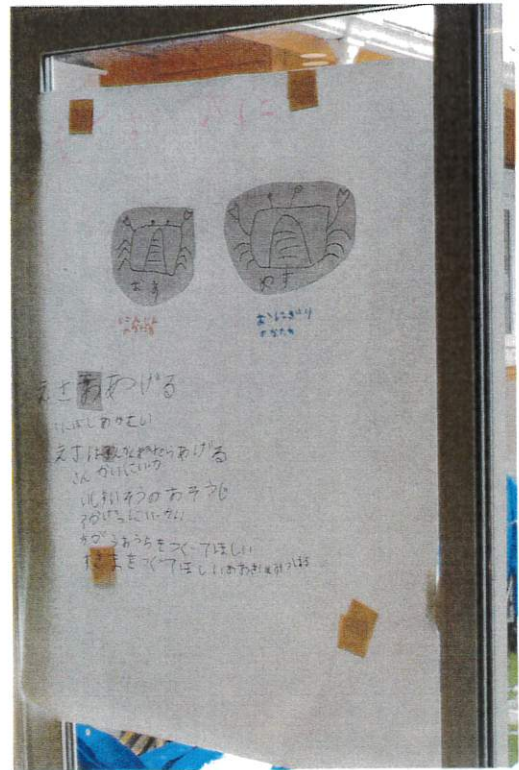
R6.3.27、さいかせんせい

カニのお世話の仕方について二すもす組から
さくら組へ伝えていきました。

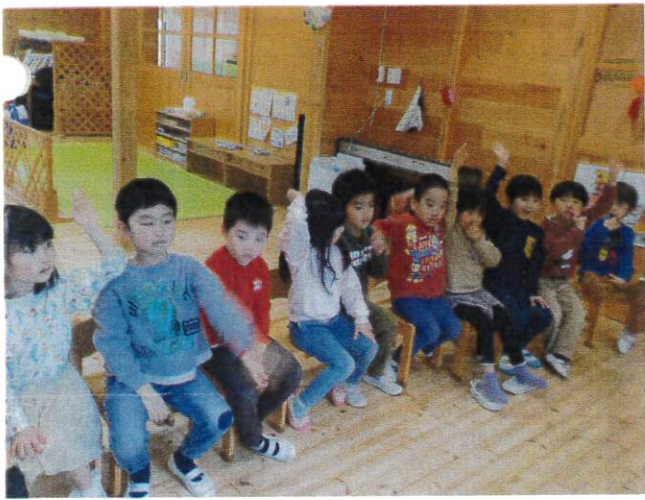
さくら組
会中...
二すもす組さん
ケンカしない
かな...?



お世話、頑張るよー! //



菅原さんから
教えて頂いて
もらって事を
さくら組なりに
まとめてい
ました。◇
これを見て
お世話をもっ
い出してね



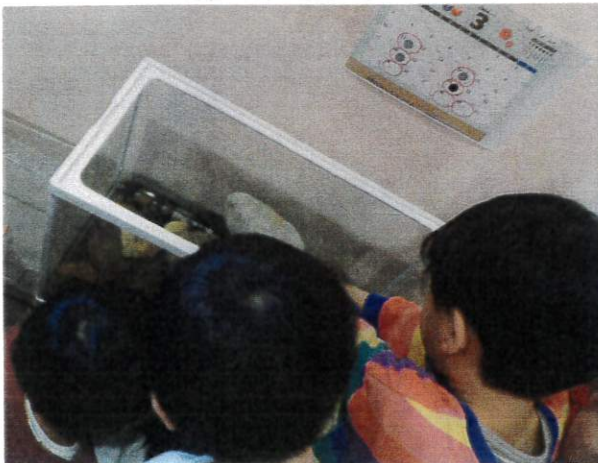
人数15人いるから
エサあげるときケンカしない??大丈夫? //



お世話
がんばって
ていい?
大バド?



二すもす組はグループに分かれてエサをあげる事に
しました。
冷蔵庫のどこにエサがあるのか教えてもらったり...
エサのあげ方を教えてもらいました。さくら組にエサを
とほりきっています。



「バグ」のちゃん 「ハラクロス」のちゃん
「カブト」のちゃん

何かになれようって2人でした!

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7111-005	身近な環境への出会い	学校法人ろりぼっふ学園 認定こども園 ろりぼっふ赤い屋根の保育園
主な実施箇所	七北田川	

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。

※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。

(縮尺は1/50万～1/100万程度)



助成事業の主な実施箇所